

演題番号：4

演題名：豚口蓋扁桃からの *Erysipelothrix* 属菌および *Salmonella* 属菌の菌検索

発表者名：○浅岡佑太 中田有紀 中込健次

発表者所属：北部食肉衛生検査所

## 1. はじめに

管内と畜場において豚が全部廃棄となる細菌性疾病の原因の多くが豚丹毒およびサルモネラ症である。一般にこれらの原因菌は口蓋扁桃から分離されることがあると報告されている。そこで今回、口蓋扁桃を用いた *Erysipelothrix* 属菌（以下 E 属菌）および *Salmonella* 属菌（以下 S 属菌）の保菌状況調査を実施したので報告する。

## 2. 調査方法

調査は平成 23 年 7 月～11 月で、対象は管内と畜場に搬入された健康豚の口蓋扁桃 152 検体を用い E 属菌および S 属菌について検索を行った。また、豚丹毒を疑い保留となった豚口蓋扁桃 9 検体について E 属菌の検索を行った。細菌の分離同定には全食検協による定法および PCR を用いた。

## 3. 結果

### (1) *Erysipelothrix* 属菌調査結果

健康豚 152 検体中、*Erysipelothrix rhusiopathiae* (以下 *E. r*) および *Erysipelothrix* sp. strain2 (以下 *E. sp2*) の 2 菌種が 4 検体から検出された。

豚丹毒で保留となった 1 検体の豚口蓋扁桃から *Erysipelothrix rhusiopathiae* が検出された。この 1 頭は関節炎型豚丹毒であった。

### (2) *Salmonella* 属菌調査結果

健康豚 152 検体中 10 検体から S 属菌が検出された。10 検体のうち *Salmonella* Choleraesuis が 2 検体から、*Salmonella* Typhimurium が 1 検体から検出された。

## 4. 考察及びまとめ

E 属菌は、健康豚での保菌率は 2.6% であり、*E. r* については 0.7% と低かったことから、管内と畜場に搬入されてくる豚は E 属菌による汚染が少ないと考えられる。

E 属菌は 1 属 5 菌種に分類されることが近年報告されている。5 菌種のうち *E. r* は豚への病原性があるとされ、今回、関節炎型豚丹毒で全部廃棄になった豚の口蓋扁桃から *E. r* が検出された。また、*E. sp2* を含む 4 菌種による豚への病原性は比較的少ないか全く無いとされている。*E. sp2* に関しては過去に管内と畜場で検出された報告が無く、豚丹毒への関与も明らかになっていない。そのため、今後は検体数を増やし豚丹毒と口蓋扁桃から検出される E 属菌との関係を調査する必要があると考えられる。

サルモネラ症として全部廃棄の原因となる血清型が検出されたことから管内と畜場に搬入されてくる豚での保菌が示唆された。S 属菌は食中毒の原因菌となるため、公衆衛生上問題になると考えられる。そのため、口蓋扁桃を取り扱う作業工程での可食部への汚染防止を指導していく必要があると考えられる。同時に生産者への情報還元を行い生産現場での衛生環境の改善に役立たせていきたい。